



東アジア文化都市2018金沢
コア事業連携企画

チウ・ジージェ
邱志杰

書くことに生きる

2018年9月8日(土)～
2019年3月3日(日)

展覧会名	東アジア文化都市2018金沢 コア事業連携企画 「 <small>チウ・ジージェ</small> 邱志杰 書くことに生きる」
会期	2018年9月8日(土)～2019年3月3日(日)
休場日	毎週月曜日(ただし、9/17、9/24、10/8、10/29、12/24、1/14、2/11は開場)、9/18、9/25、10/9、12/25、1/15、2/12(月曜日が祝日の場合は、翌日休場)、年末年始(12/29～1/1)
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで) ※チケット販売は開場の30分前まで
会場	展示室7～12、14、ほか
料金	●本展観覧券 一般 1,000円(800円) / 大学生 800円(600円) / 小中高生 400円(300円) / 65歳以上の方 800円 ●「起点としての80年代」との共通観覧券(適用期間:2018年9月8日～10月21日) 一般 1,700円(1,400円) / 大学生 1,400円(1,100円) / 小中高生 700円(600円) / 65歳以上の方 1,400円 ※()内は団体料金(20名以上)及び前売りチケット料金
前売り券取扱い	●本展観覧券 チケットびあ TEL:0570-02-9999 Pコード:769-104 ローソンチケット TEL:0570-000-777 Lコード:56936 ●共通観覧券 チケットびあ TEL:0570-02-9999 Pコード:769-105 ローソンチケット TEL:0570-000-777 Lコード:56916
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]
後援	外務省、中華人民共和国駐日本国大使館文化部
助成	日中友好協力基金
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL: 076-220-2800

本資料に関するお問合せ

金沢21世紀美術館 事業担当: 黒澤・立松 広報担当: 落合・石川
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会概要

代表作から最新作まで—アジアの注目アーティスト日本初の大規模個展

チウ・ジージェ 邱志杰は、幼少から学んだ「書」を表現の中心に置き、書くことを通じて、普遍的で根源的な人間の存在について問い直してきました。生誕の地である福建省は、かつて海上貿易が盛んだったこともあり、交易や移住による交流が豊かな地域です。彼のダイナミックで自由な視点を持った作品群は、そうした土地の文化にも大きな影響を受けたと考えられます。本展では、世界の有り様を俯瞰し、人と物事チウ・ジージェの関係を記述することに自身の存在を重ねる、邱志杰の創造とその魅力に迫ります。

作家プロフィール

チウ・ジージェ 邱志杰 Qiu Zhijie

1969年中国福建省生まれ、北京および杭州在住。アーティスト、キュレーター、文筆家、教育者として活躍。アーティストとしては写真、ビデオ、書、絵画、インスタレーション、パフォーマンスが融合する作品を発表するなど、境界にとらわれない活動を展開してきた。国家的モニュメントへのアプローチをもとに、近代化の大きなうねりのなかで国家と個人の夢と現実が交錯するさまを明らかにした「南京長江大橋プロジェクト」(2009年に北京のユーレンス現代美術センターにて発表)は彼の代表作と言える。第57回ヴェネチア・ビエンナーレでは、展覧会「Continuum – Generation by Generation」のキュレーションを行った。

東アジア文化都市
2018 金沢

「東アジア文化都市」は、日中韓文化大臣会合での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、現代の芸術文化や伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を実施するものです。2018年は金沢(日本)、ハルビン(中国)、釜山(韓国)の3都市において開催します。

チウ・ジージェ 邱志杰は金沢21世紀美術館が企画する、まちなか展覧会「東アジア文化都市2018金沢 変容する家」(会期：2018年9月15日～11月4日)の出品作家の一人でもあります。

関連プログラム

アーティスト・トーク

日時：9月8日(土) 14:00～15:30 (開場13:15)

場所：レクチャーホール、金沢21世紀美術館

料金：無料

定員：先着70名(事前申込み不要)

※逐次通訳付(中国語-日本語)

※進行の都合のため途中退場はご遠慮ください。

展示構成

展示室7

印章の迷宮

《印章の迷宮》は道教の護符の形態を借りています。道教の文字は非常に複雑で、かなり曲がりくねった「九疊」と呼ばれる書体を使用していて、字そのものを迷宮のように、迷わせ見失わせる形にして鬼を阻止するという言い伝えがあります。また、通常は道教の護符は邪神を鎮圧するため使われるもので、上には「天師相印」など道教の神の名が書かれています。本作は、古新聞をかためてレンガ状に積み上げたものを「通路」の「通」の字として形作った迷宮になっています。来場者は通路の中を通り、同時に高所に取り付けられたコーナーミラーを見て、迷宮の中を歩く助けにすることができます。現代における様々なメディア、手書きの漢字や印章といった昔からある文字によるメディア、そして人の思想など、目に見えない関係をも示そうとしています。

展示室8

南京長江大橋自殺介入計画

《南京長江大橋自殺介入計画》は、南京長江大橋における自殺に関する社会調査をもとに2006年から始められたプロジェクトです。近年の中国美術界では、最も長期的で大規模なプロジェクトのひとつと言われており、邱志杰はこの新時代の中国社会の中で、象徴的役割を持つ建築である大橋と、それに関連した事件を深く考察し、革命や民族主義、そして現代の幹線道路と個人の運命との複雑な関係について再考を促しています。このプロジェクトの作品は、哲学、心理学、社会学、社会包摂など、さまざまな視点を含むのみならず、ビデオ、写真、パフォーマンス、版画など、多岐のメディアを使って総合芸術として展開しているものです。

展示室9

逆さ書きの書道

《逆さ書きの書道》は視覚的なスタイルを超え、中国書道を一つの動作として解釈しています。それはつまり、抹消された筆跡に「書く」動作自体が現れるということです。書道とは紙の上で、まるで運動の生命が行進し踊るようなもので、一瞬で現れては消え、何も残らず、まるで雪の上の雁の足跡のように見えます。邱志杰は《逆さ書きの書道》の手法により、書道史の最後のページに身を隠しつつ、中国書道文化の本質に立ち戻ろうとしています。

展示室10

心経

力強さを誇示するような建物、人気のない路地、開発中の現場にある重機などを背景に、対面に置いたカメラのシャッターを開放にして光の軌跡を写真に留めた作品です。文言は『般若心経』で、200文字以上が順に最後まで書かれています。完成までに13年間をかけ、制作は邱志杰自身がひとりで行いました。「空」について説いた経典を空中に向かって書いていますが、言葉を伝える以上に、邱志杰のダイナミックな身体の動きが記録されている点は注目に値します。書は文字の形を整えるのではなく、身体性にその真髄があるとする邱志杰の考えを端的に伝えるものです。経文の蛍光色が夜の暗い背景に漂って見え、自分が存在する具体的な場所は無く、実体はこの世のどこにも存在しないという考えに寄り添っています。

展示室11

邱志杰チウ・ジージェの解釈による上元灯彩図

邱志杰チウ・ジージェはまず明時代の《上元灯彩図》を拡大して模写しました。この貴重な古代の風俗画は明時代の南京地区における小正月の街の景色が細やかに描かれ、様々な色の提灯が新春のお祭りの雰囲気をよく表しています。紳士や商人、市民など様々な人達が絵の中で現れて人の流れを作り、様々な建築や器物、場景が豊富で生き生きと描かれています。次に、邱志杰チウ・ジージェはその古画に、様々な注釈を加え、古画に基づく第一の創作《上元灯彩図との出会い》が制作されました。《邱志杰の解釈による上元灯彩図》は、《上元灯彩図との出会い》から始まり、一連の著作、絵画、インスタレーションや演劇などの芸術形式を含んでいます。今回の展示では、27点の彫刻が配置され、それぞれが中国の歴史上繰り返されたイメージや現象に対応しています。私たちの操作する、或いは自動的な動きを持つ作品同士の組み合わせ、またその過程も、ひとつの「金陵（=南京の古称）劇場」になっています。

展示室12

七花園

《七花園》はテキストに基づく視覚実験です。イタリアのある団体は自身が発行する雑誌のために、邱志杰チウ・ジージェに絵を使わず、完全に文字のみを使って花園を記述し表現するようにと依頼しました。しかし、これは漢字を使う中国人にとっては不可能です。何故なら「花」と「園」という字は元は全て絵だからです。「花」は花のイメージで、「園」は園の象徴です。邱志杰チウ・ジージェは作品にした短い文章中に、中国人の庭園に対する感情と、世界全体の鏡像としての庭園について書きました。

展示室14

遊戯場

《遊戯場》では、地図上の様々な場所で起こっている国家間の政治摩擦や対立の隠喩を描き、またインスタレーションには感情、人間関係、自然災害、及びイデオロギーや政治的行為を表す木製の球、金属製の球、ガラス製の球などが含まれています。展示室では、来場者がボールを触ったり、展示室の内部でボールを動かしたりすることができます。これらの双方向の行為を通じて日進月歩の景観を創り出し、変化し続ける国の社会の様子や枠組みを描き出しています。

展示室14 外周

一字一石・成敗

《一字一石》は仏教における長い伝統です。経文の文字を何文字か分散した石に書くことで、修行を日常の課程に組み入れるという敬虔な態度も表しています。日本では一字一石の塔が多く存在します。中国山東省の葛山摩崖石刻では巨大な石の上に字が刻まれ、山と川全体がアースワーク^{※1}の様になっています。今回、ここで展示されている《一字一石・成敗》という作品の中では、梁啓超リヤン・チーチャオ（1873-1929）が日本で書いた『自由書』から「論成敗」の600字余りを書き、一石につき一から三文字を、500個の石の上に刻みました。この文章は、近代化の過程の中で人が挫折に直面したときの勇気について記したものです。石の作品は、美術館内や金沢市内のさまざまな場所に散らしています。

※1 アースワーク 広大な自然を素材にした作品

市民ギャラリーA東側通路

世界庭園地図

《世界庭園地図》は画面それ自体も蘇州の庭園のように構成されています。隠れたかと思ふと現れ、線が連なり呼応し、曲がりくねった道は奥深くまで通り、長く見る事が出来るようになっていて、半日遊びに耽る事ができます。邱志杰チウ・ジージェはさまざまな地図を作っていますが、物事の道理の形式と主題との相応として、これに勝るものはありません。邱志杰チウ・ジージェは「中国では、植物をよく知ると主張する人は皆、世間に憤りを持つ政治に対しての批評家である」と主張しています。

広報用画像

画像1～6を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。

Email: press@kanazawa21.jp

[使用条件]

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

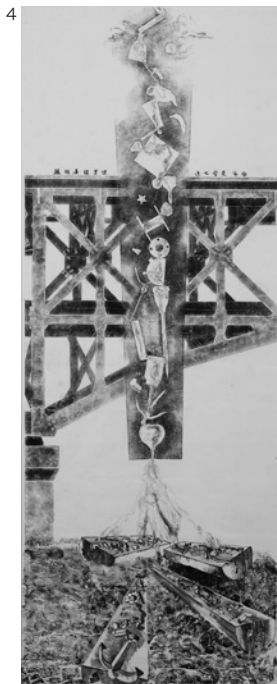
※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。



《心経》2005-2018
Cプリント
作家蔵



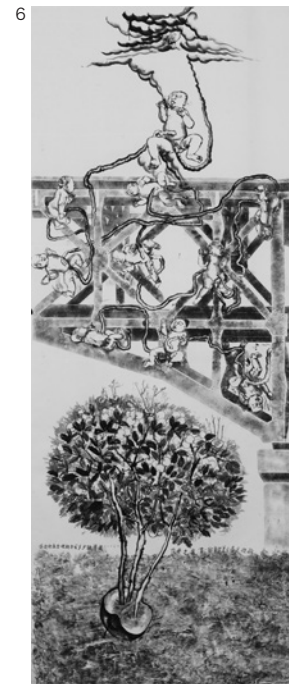
《暗がりの伝道者》2008
リトグラフ
金沢21世紀美術館蔵



《チウ・ジャワへの30通の手紙
目の前を過ぎる雲のように儚いものでも
あるが、万物でもあった》2009
紙、インク
作家蔵



《チウ・ジャワへの30通の手紙
九死に一生を得ていた》2009
紙、インク
作家蔵



《チウ・ジャワへの30通の手紙
一つのリンゴに何本の木があるか数えよ》
2009
紙、インク
作家蔵